

右の地図のA～Jのそれぞれの地域について述べた次の文章を読んで答えなさい。

A この台地は大井川の西岸にあり、明治時代の初めに世の中が変わって職を失った士族や農民によって開墾が始められ、日本一の茶の生産地①になった。

B この海岸はリアス式海岸で波がさえぎられ、大きな漁港②がいくつも発達している。ここは特に地震による津波の被害を受けやすい。沖合では親潮と黒潮が合流し潮目ができ、かつお・まぐろ・さんま・いわしなどの魚が水揚げされている。

C この海岸では、リアス式海岸を利用して真珠やはまちの養殖が行われている。日当たりがよく、水はけのよい山の斜面を利用してネーブルオレンジや温州みかんが栽培され、日本一のみかんの産地である。

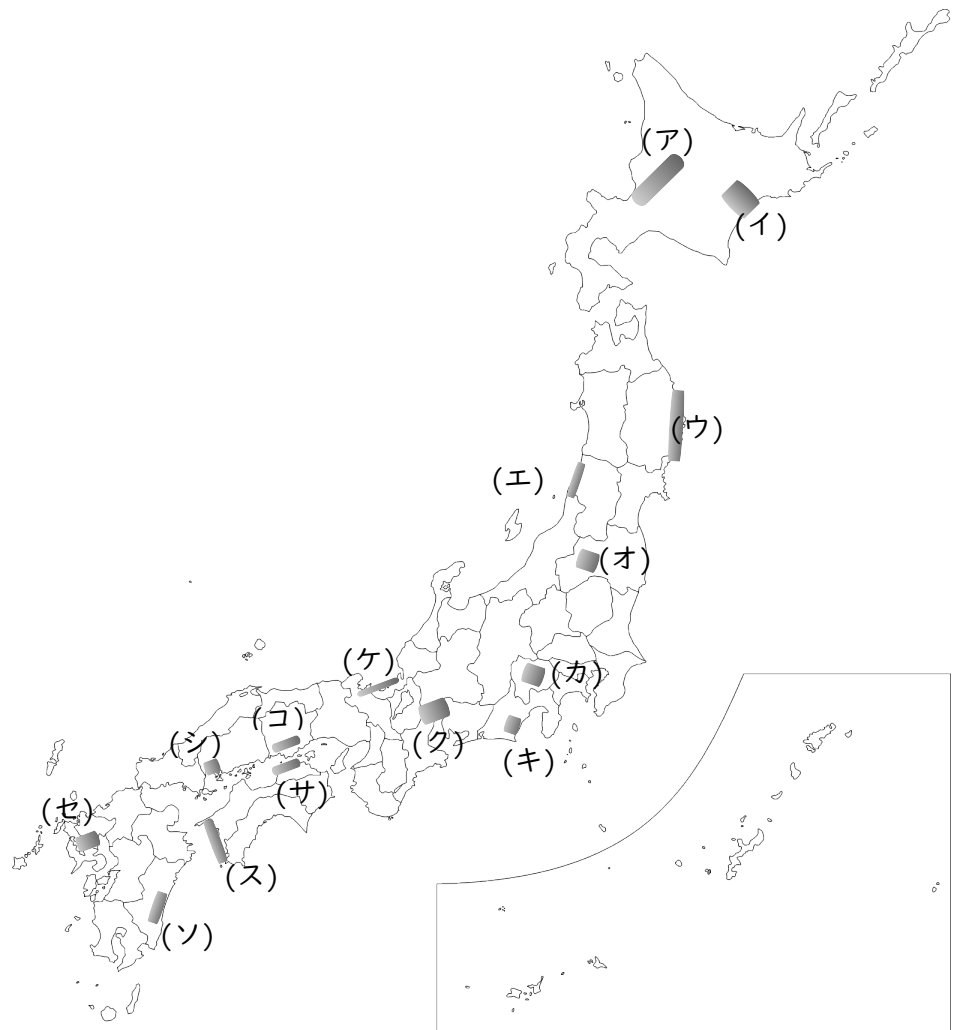
D この平野は温暖な気候を利用してピーマンやきゅうりなどの野菜を栽培し、大型フェリーやトラック輸送で大阪や東京の大消費地へ送っている。

E この平野は火山灰におおわれた台地状の平野で、じゃがいも・てんさい・大豆③などを栽培している日本でも代表的な畑作地帯である。経営規模も大きく機械化されている。また、牧草も栽培され酪農も行われている。

F この平野の西部では、木曽川、(④)、揖斐川の三大河川が合流し、洪水に悩まされたので輪中集落がつけられた。東部は台地が多く、干ばつに悩まされてきたが、1961年に木曽川から用水⑤が引かれ、花や野菜の栽培が盛んになった。用水はこの地域の上水道や工業用水としても利用されている。

G この平野は日本でも有数の稲作栽培の盛んな平野である。江戸時代には北前船で酒田の港から米や紅花が大阪や京都へ積み出された。海岸の砂丘地帯ではメロン栽培も行われている。

H この平野は旭川・吉井川の下流にあり、水田の裏作として、い草が栽培されてきた。また、桃やマスカットの温室栽培も行われている。児島湾では、江戸時代から大規模な干拓事業が行われ、広い干拓地で機械化された農業経営が行われている。



I この平野は、遠浅の海を干拓して広げられた平野で、水路網もよく発達し稲作が盛んである。また、最近では、野菜の栽培も多くなってきた。

J この盆地は扇状地が発達し、かつては桑が植えられていたが、鉄道や高速道路の発達により、勝沼を中心にぶどう、一宮を中心に桃などの果樹栽培が多くなってきた。

(1) A～Jの文章はどの地域について説明していますか。その地域名を次のあ～ての中から選び、記号で答えなさい。また、地図の中の(ア)～(ソ)の記号で答えなさい。

あ 新潟 い 甲府 う 讃岐 え 志摩 お 鳥取 か 筑紫
 き 武蔵野 く 岡山 け 濃尾 こ 三陸 さ 庄内 し 十勝
 す 牧ノ原 せ 石狩 そ 阿蘇 た 宮崎 ち 長野 つ 宇和 て 根釧

(2) 下線①について、わが国の代表的な茶の生産府県としてまちがっているものをあ～おの中から1つ選び、記号で答えなさい。

あ 三重県 い 京都府 う 青森県 え 鹿児島県 お 宮崎県

(3) 下線②について、この地域の漁港を次のあ～おの中から1つ選び、記号で答えなさい。

あ 銚子 い 釧路 う 焼津 え 気仙沼 お 境

(4) 下線③について、わが国がもっとも多く大豆を輸入している国をあ～おの中から1つ選び、記号で答えなさい。

あ インド い カナダ う アメリカ合衆国 え フランス
 お オーストラリア

(5) (④)に入る河川名を答えなさい。

(6) 下線⑤について、木曾川から知多半島まで引かれているこの用水名を答えなさい。

	A	B	C	D
(1)	E	F	G	H
	I	J		
(2)		(3)		(4)
(5)		(6)	用水	

(1)

A 静岡県南部の大井川西岸に広がる牧ノ原台地(地図中のキ)は、明治時代初期に失業した士族を救済するための事業として開発が始まり、日本一の茶の産地となっています。

B 谷の多い山地が海に沈んでできた、入江と岬が複雑に入り組んだ海岸線をリアス海岸といいます。三陸海岸(地図中のウ)は典型的なリアス海岸で、漁業に適した天然の港が多数ありますが津波の被害を受けやすくなります。また、三陸沖で暖流の日本海流(黒潮)と寒流の千島海流(親潮)がぶつかって潮目を形成し、よい漁場となっています。

C 愛媛県西部の宇和海(地図中のス)では、リアス式海岸の入江を利用して水産物の養殖がさかんに行われていて、はまちは全国第3位、真珠は第1位の収穫量をあげています。また、愛媛県は平地が少なく、日当たりのよい山の斜面につくられた段々畑を利用してくだものの栽培がさかんに行われていて、みかんは全国第2位、ネーブルオレンジは第4位の生産量をあげています。

D 宮崎平野(地図中のソ)は、沖合を暖流の日本海流が流れているため冬でも比較的暖かく、温暖な気候とビニルハウスを利用して、ピーマン(全国第2位)、きゅうり(第1位)などの促成栽培がさかんに行われています。

E 北海道南東部に広がる十勝平野(地図中のイ)は、大部分が火山灰土におおわれていることに加え、海岸部は沖合いを寒流の千島海流が流れているため、夏に濃霧が発生して気温が低く、稲作には適しません。そのため、じゃがいもや大豆などの豆類、小麦などの麦類を栽培する畑作地帯となっています。

F 愛知県と岐阜県にまたがる濃尾平野(地図中のク)は、木曾川・長良川・揖斐川の下流域に発達した沖積平野で、洪水の被害を避けるためにまわりを堤防で囲んだ輪中とよばれる集落がみられます。

G 山形県の庄内平野(地図中のエ)は最上川の下流域に広がる沖積平野で、河口に位置する酒田市は、古くから庄内平野一帯で栽培される米などの集積地として発達してきました。

H 岡山平野(地図中のコ)では、米とい草の二毛作のほか、北部の丘陵地帯でももやぶどうの栽培が行われていて、ももの生産量は全国第6位、ぶどうは第4位となっています。

I 福岡県と佐賀県にまたがる筑紫平野(地図中のセ)は、筑後川の下流域に広がる九州一の稲作地帯で、クリークとよばれる用・排水路が網の目のように発達しています。

J 谷の出口に発達した扇形の傾斜地を扇状地といい、山梨県の甲府盆地(地図中のカ)では、富士川の上流にあたる釜無川と笛吹川が形成した扇状地が見られます。扇状地は水はけがよいため稲作には適さず、甲府盆地では果樹の栽培がさかんに行われ、山梨県のももとぶどうの生産量はともに全国一となっています。

(2) 茶は、高温多雨で水はけのよい土地での栽培に適しているため、青森県では栽培されていません。都道府県別の茶の生産量は、静岡県、鹿児島県、三重県、宮崎県、京都府の順で、京都府の宇治市は高級茶の産地として知られています。

(3) 気仙沼市は宮城県の北東部に位置し、さんまやかつおなどの水あげが多い水産業都市です。銚子は千葉県、釧路は北海道、焼津は静岡県、境は鳥取県にある漁港です。

(4) 日本の大豆の自給率は7%で、おもな輸入先は、アメリカ、ブラジル、カナダ、中国の順です。

(5) 岐阜県を水源とする長良川は、濃尾平野南部の三重県桑名市で揖斐川と合流し、伊勢湾にそそいでいます。長良川では夏に伝統漁法「鵜飼」が行われています。

(6) 木曾川の水を愛知県西部の知多半島へ引く愛知用水は、1955年から1961年の木曾川総合開発によってつくられました。愛知県東部の三河地方には矢作川から明治用水が、渥美半島には豊川と天竜川から豊川用水が引かれています。

	A	B	C	D			
(1)	す E	キ	こ F	ウ G	つ ス	た H	ソ
	し I	イ	け J	ク	さ エ	く	コ
	か	セ	い	カ			
(2)	う		(3)	え		(4)	う
(5)	長良川		(6)	愛知	用水		